

提 案 の 概 要

施設名：名古屋市志段味古墳群歴史の里

団体名：しだみの里守グループ

構成団体：(中電クラビス株式会社)

(岩間造園株式会社)

(特定非営利活動法人

古代邇波の里・文化遺産ネットワーク)

(1) 管理運営全般について

①施設の管理運営に対する方針等

<基本方針>

古墳時代の各時期にわたる多様な古墳が集積するしだみ古墳群は、我が国の古代史の縮図とも言える場所です。この場所で“学び”と“体験”をとおり五感で古代ロマンを体感し、貴重な文化財である古墳とその地形・自然環境の保存の必要性を学びます。

さらに、周辺住民との連携に留意し地域の共存を図るため、地元自治会との相互協力や周辺住民を意識したプログラムを提供します。

②管理運営体制

<組織・人員の配置・体制>

本施設を安全かつ効率的に運営するため、適切な人員数の確保と展示館運営経験および学芸員資格を有するスタッフの配置が重要であると考えます。そこで、館長、副館長代理、スタッフのほか、学芸担当、緑地・施設管理についても経験豊富な担当者を配置し、バランスのとれた運営体制を構築します。

また、本施設の運営をバックアップするため、代表企業側に本施設の運営・管理を経験している専属の管理者を配置し、他構成企業においても専門家又は有資格者を配置する事で信頼に足る体制を構築します。

運営体制 (1日)	
総括管理責任者	2～3名
副総括管理責任者	
学芸スタッフ	2名
運営スタッフ	1～2名
緑地管理スタッフ	1名

バックアップ要員	
運営全般・予算管理・イベント運営	2名
緑地・古墳・芝生管理	2名
学芸関係	2名

※繁閑状況により変更

<人材育成方針>

来館者の安全に配慮すると共に非常時対応としての AED 操作研修や避難訓練の他、今日的課題でもある個人情報取り扱いやコンプライアンス、人権に関する教育を実施します。

さらに、来館者対応の基本となる接客研修により、来館者満足度の向上に努めます。

また、古墳や古墳時代に対する知識と経験を深めるため全スタッフを対象に各地の古墳施設の視察や古墳に関する勉強会を実施します。

<市民の平等利用に関する考え方>

人種、性別、障害の有無にかかわらず、全ての来館者に対して平等かつ公正に対応することを原則とします。また、予約や利用条件において偏りや不公平な扱いを排除し、誰もが同じ機会を持てる運営となるため内容に即した様々な手法を組み合わせで行います。

常に来館者の意見に耳を傾けながら、公平性の確保に取り組めます。

<災害時の危機管理体制及び事故発生時の対応方針>

危険事象の未然防止および危険事象が発生した場合、迅速かつ確実な対応を可能にするため「危機管理マニュアル」に従い対応します。

また、事故発生に備え、責任者として副館長代理以上を複数名配置し、予防と初期対応の充実に努めると共に、緊急時には現場での応急措置に加え代表企業の施設担当責任者を含め、関係箇所への速やかな連絡と連携を図りながら適切な対応を行います。

<施設管理・施設修繕・保守点検計画>

建物の維持管理・修繕業務は「建築保全業務共通仕様書」（国土交通省）を基に実施し、日常点検・保守、定期保守点検業務の際に修繕の必要が生じた場合、緊急度に応じて計画的に修繕を行います。また経年劣化なども考慮し、部品交換等が見込まれる場合は事前に更新するなど予防保全を基本とした、修繕計画を立てていきます。

<古墳・緑地管理>

来館者の安全の確保と快適な環境を維持するため、当該業務に長年の経験と実績を有する人材を緑地・古墳管理者として選任し、公園アセットマネジメントシステムにより、安全かつ効率的な維持管理に取り組みます。

また、当該責任者やスタッフ、常に巡回を行っている清掃員、日常的に古墳ガイドを行うボランティアとの情報共有より異常個所の早期発見に努め、文化遺産である古墳の毀損を防ぎます。

(2) 実施業務の計画について

①指定管理業務

<利用者意見の聴取・反映方法>

来館者の属性や満足度および要望を調査するアンケートをイベント実施時他、「抽選プレゼント型アンケート」を平常時にも恒常的に実施し、その内容を分析・検討し運営に反映します。

また、ホームページ上に来館者からの意見をいただく機能を持たせ、来館者の意見に真摯に耳を傾けるとともに、建設的なご意見については、速やかにこれに対応し、必要に応じて対応策をホームページ上でも公表します。

＜利用促進策（PR策）＞

WEB や SNS といったネット媒体をはじめ、各種イベントのチラシ製作及び印刷を行います。小中学校ではデータ配信やサイト掲載する自治体が増えているものの、紙の特性も配慮し希望する学校には紙でも配布を行うと共に新聞広告、交通媒体、様々なチャンネルを併用することで本施設の認知度向上およびイベントの告知を行います。

＜体験プログラム・講演会・イベント＞

古墳に初めて訪れる市民でも楽しめる体験プログラムから古墳や古墳時代の歴史に興味を持つ市民の知的好奇心を満たすのに十分な質の高い講演会まで、幅広い世代に応えるプログラムを開発し提供します。

■体験プログラム（通年）

いつ来ても気軽に体験が可能な古代体験プログラムでは、土日・祝日だけでなく、平日にも、複数のプログラムを実施します。

■歴里講座（連続講座）

初期の狩猟・農耕時代にあった人々のリアル（工夫・ワクワク、ドキドキ、機知、苦労など）を現代によみがえらせ、得られた素材を利用して、頭から指先まで全身をもって古代の人々のリアルを体現することを本講座の基本方針とします。

■講演会

歴里講演会のリピーターや歴史愛好家はもちろん、古代に関心のある市民を新たに取り込むため、企画展示のテーマと関連した講演会を企画します。

■イベント

地域住民との共存を図る住民主体のイベントや古代の暮らしに思いを馳せ、現在の生活を見直すきっかけになるようなテーマを選定し、各方面の専門家等の協力を得て、学びと体感を主体としたプログラムの企画に心を砕いています

また、春まつりや秋まつりは恒例行事として住民参加型のイベントとして企画します。

■その他

体験農園では、一般的な収穫体験だけではなく、植え付けから収穫、収穫物の活用といった一連の流れの体験をとおして古墳時代の暮らしを理解できるよう展開いたします。また、農園の栽培計画は、歴史講座における植物の栽培体験と組み合わせたプログラム計画に合わせていきます。

＜施設ボランティアの育成・活用＞

地域の文化財を保護し、未来に伝えていくためにも本施設周辺のボランティアを増やすことが望ましいため、地域との共存に配慮しながら、様々なチャンネルをとおしてボランティアの確保に取り組めます。

さらに、ボランティアには、新たに採用した場合の「登録前研修」と既に活動しているボランティアを対象とした「登録後研修」を実施し、接遇、古墳の基礎から最新の考古学的知識、参加者とのコミュニケーション等の他、来館者からの意見や改善点等について意見交換を行い、ガイド品質の向上と来館者満足度向上のスキルアップを図ります。

<地域連携・学校連携>

近隣の学校、類似施設等との連携を図り、本施設の有効活用と市民に憩いや交流の場を提供する事に尽力しています。

例えば、地元自治会等への会議体への参加や類似施設との共同イベント企画、また周辺大学とは謎解きや音楽サークルとの連携を図り、発表の機会を提供することで来館者の少ない若者の本施設の活用に努め、地域住民及び地域の発展に貢献します。

<特記事項>

歴史の里・しだみ古墳群で多くの市民が学び、楽しんでいただくため、本施設は古墳や古墳時代への歴史的・学術的アプローチの場、家族で繰り返し楽しめる場、若者が活躍できる場として利用されることが大切であると考えます。

②自主事業

<オリジナルグッズ等の販売>

来館者ニーズの把握に努め、来館者が求める本施設でしか入手できないオリジナルグッズを開発し、施設内に設置するミュージアムショップで販売します。

<自主イベントの実施>

古墳に実際に訪れ、その歴史的背景などについて散策しながら学ぶ「古墳散策」他、苔や小石を活用してミニサイズの古墳を作りあげる「古墳テラリウム」、古墳エリアで新感覚のスポーツ「スラックライン」等、本施設の活性化につながる取り組みを継続してまいります。

(3) 収支計画について

①管理運営にかかる費用等

<年度ごとの指定管理料の提案額>

(単位：千円)

区 分	金 額
2024 年度	113,804
2025 年度	114,976
2026 年度	113,890
2027 年度	114,095
2028 年度	115,525

<年度ごとの収支計画>

【管理運営経費】 (単位：千円)

区 分	金 額
2024 年度	123,054
2025 年度	124,226
2026 年度	123,140
2027 年度	123,345
2028 年度	124,775

【利用料金収入等】 (単位：千円)

区 分	金 額
2024 年度	8,950
2025 年度	8,950
2026 年度	8,950
2027 年度	8,950
2028 年度	8,950

【自主事業からの充当額】 (単位：千円)

区 分	金 額
2024 年度	300
2025 年度	300
2026 年度	300
2027 年度	300
2028 年度	300

<経費削減の取組み>

- ・実績を活かし繁閑を考慮した人員配置。
- ・点検の徹底による早期発見に伴う想定外コストの抑制。
- ・経済的な発注先の選定や単価管理、経済的な購入計画。
- ・省エネルギー活動による経費の節減。